

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

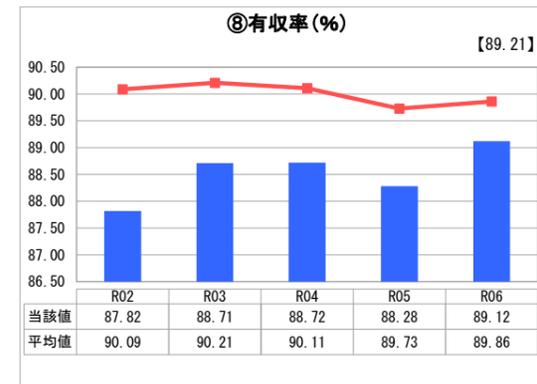
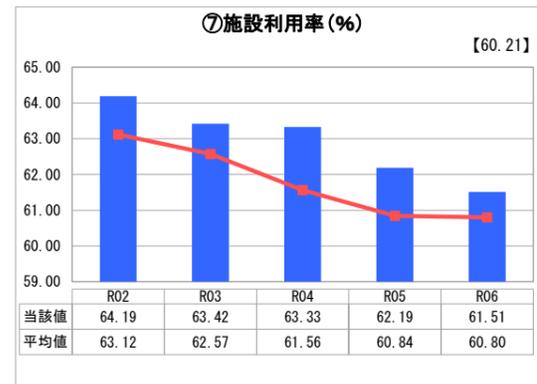
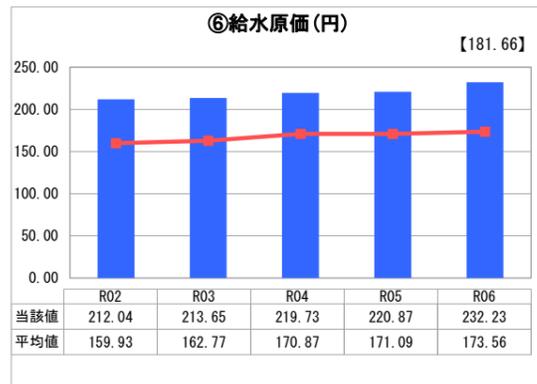
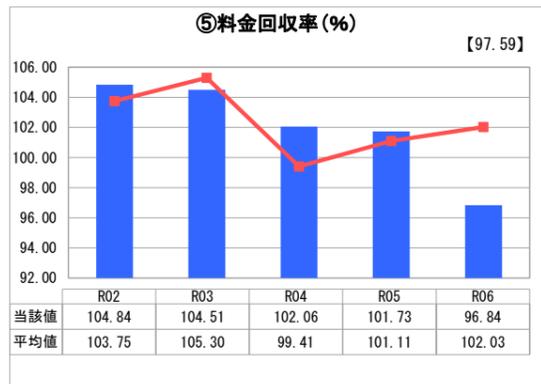
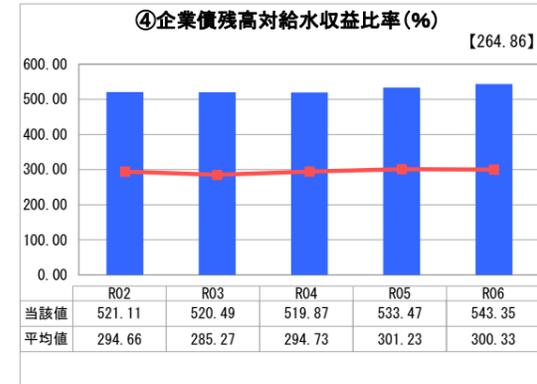
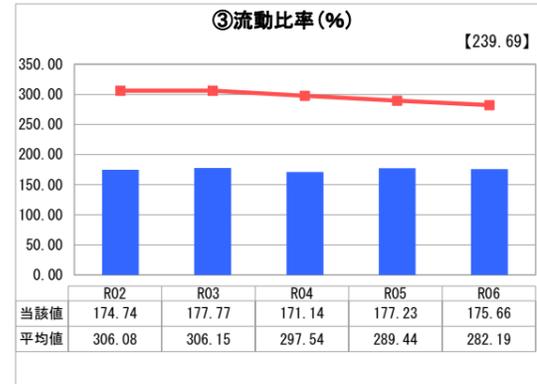
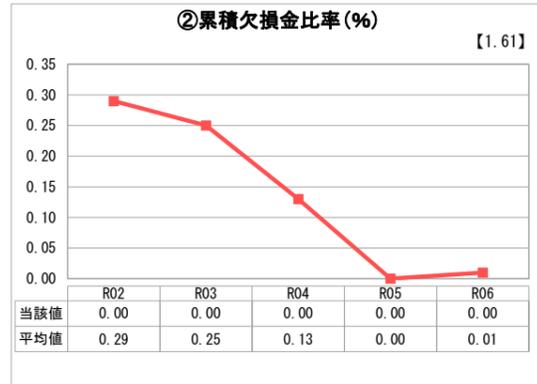
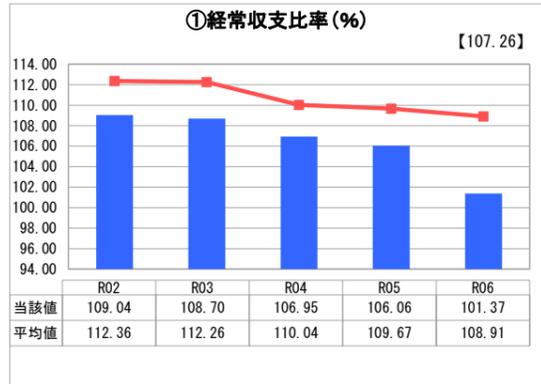
長崎県 佐世保市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	60.56	98.27	4,195	

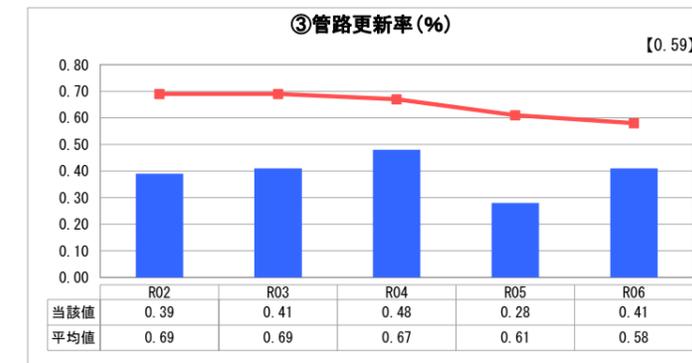
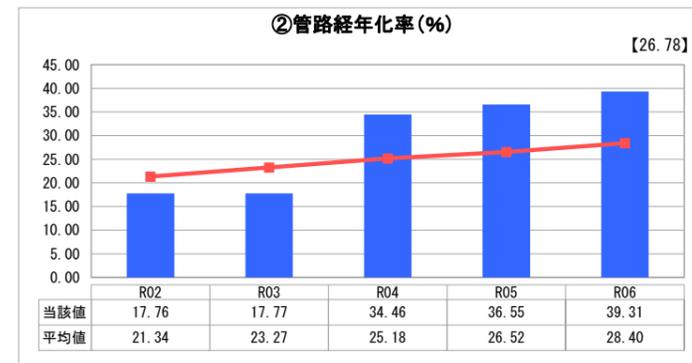
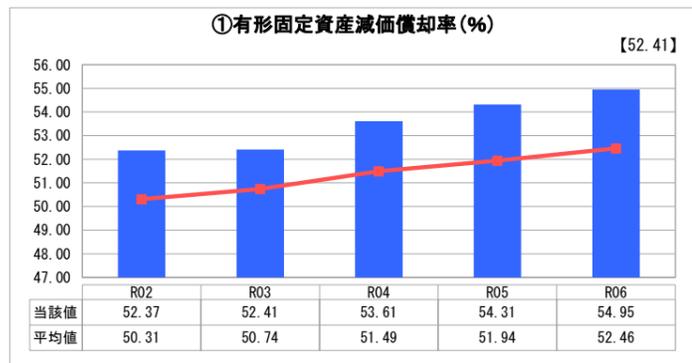
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
233,507	426.01	548.13
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
227,030	219.92	1,032.33

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率 ② 累積欠損金比率 ③ 流動比率  
 経常収支比率は経常費用の増により、昨年度より低下している。流動比率は類似団体平均値を下回っているものの100%以上を維持できている。一時借入金もなく、累積欠損金も生じていないため短期的な支払能力に問題はなく健全な状態といえる。  
 ④ 企業債残高対給水収益比率  
 企業債残高が増加し、給水収益は減少したため比率が上昇している。類似団体平均値も上回っており、給水収益の約5倍となっている。  
 ⑤ 料金回収率⑥ 給水原価  
 料金回収率は昨年度より約4.89ポイント減少し、100%を下回った。また、類似団体平均値についても下回った。これは、給水原価の上昇によるものであり、給水に係る費用を料金で賄えない状況となっている。給水原価は昨年度より11.36円増加しており、類似団体平均値を上回っている。これは本市の地理的特性により施設数が多く、資本費及び維持管理費に係る経費が高くなっていることに加え、近年の急激な物価や労務単価の上昇が要因である。  
 ⑦ 施設利用率  
 類似団体平均値を上回っているものの、配水量の減少により昨年度より利用率が低下している。  
 ⑧ 有収率  
 人口減少等により有収水量は減少したが、漏水量も減少したため、昨年度より0.84ポイント増加した。ただし、類似団体平均値を下回っている。老朽化の進行で漏水削減が難しくなっているが、遠方監視装置の活用や、高水圧地域における適正水圧のための減圧弁設置などの漏水防止対策を講じ、漏水量の水準維持を図ることで、有収率の維持に努めている。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率  
 年々資産の老朽化が進んでおり、類似団体平均値を上回っている。  
 ② 管路経年化率  
 R6はR5同様に類似団体平均値を上回っており、年々上昇している。小口径の老朽管解消の割合が高くなったものの、法定耐用年数を超える管の増加率が上回っていたために、類似団体平均値より高くなっている。  
 ③ 管路更新率  
 R6はR5に比べて小口径管の更新延長が伸びたものの、類似団体平均値をわずかに下回った。

### 全体総括

経常収支比率や流動比率は100%以上を維持しており、短期的な経営の面では一定の健全性は保たれているものの、類似団体平均値を下回っている。近年、浄水場や基幹配水本管の更新などの大規模事業の実施により財政的弾力性が減している。また水源不足の未解消や人口減少などにより増収要素がなく、給水収益が減少傾向にある一方で、広域化等によるコスト削減も進んでいないため、純利益の確保も難しくなっている。  
 老朽化の状況においても、管路経年化率は類似団体平均値を上回っており、機能維持のための適切な更新が課題となっている。  
 今後、更なる人口減少、更新需要増加、物価・労務単価の上昇により経営環境はより厳しくなっていく。健全経営のため、将来の経営見通しに基づき適正な給水収益の確保に努めていく必要がある。